慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	神谷不二教授略歴 ; 主要著作目録
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1992
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.65, No.2 (1992. 2) ,p.321- 334
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	神谷不二教授退職記念号
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19920228-0321

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

神谷 不二 教授 略歴

昭和二年一月六日生	
昭和二〇年三月	第八高等学校（旧制）文科甲類卒業
昭和二四年三月	東京大学法学部（旧制）卒業
昭和二四年四月	東京大学法学部助手
昭和二七年九月	大阪市立大学法学部助教授
昭和三四年九月―三五年六月	米国シカゴ大学国際関係学部フルブライト研究員
昭和三五年九月―三六年一一月	米国コロンビア大学、戦争平和研究所客員研究員
昭和三七年四月	大阪市立大学法学部教授　この間大学評議員、学部長を歴任
昭和四五年四月	慶應義塾大学法学部教授
昭和五二年九月―五四年五月	米国コロンビア大学、東アジア研究所およびロー・スクール客員教授
昭和六〇年九月―六一年六月	米国コロンビア大学、東アジア研究所およびロー・スクール客員教授
平成三年三月	慶應義塾大学を選択定年により退職
平成三年四月	東洋英和女学院大学教授　慶應義塾大学法学部客員教授

学外兼務等

昭和四五年から現在	国際法学会理事
昭和四三年から現在	国際政治学会理事

昭和四五年から現在	日本国際問題研究所理事
昭和五三年から現在	平和安全保障研究所理事
昭和六三年から現在	立法政策研究センター理事
昭和四三年から現在	内閣外交政策懇談会（のち内閣から外務省へ移管、国際問題懇談会と改称）委員
昭和六〇年から現在	防衛庁防衛政策懇談会委員
昭和六一年から現在	文部省教科用図書検定調査審議会委員
昭和六三年から現在	読売新聞調査研究本部客員研究員
昭和四二年から現在	韓国国際関係研究所在外顧問
昭和四八年から現在	日米欧委員会（Trilateral Commission）Japan Commissioner
昭和六〇年から現在	Senior Member, Columbia Law Association
平成二年から現在	太陽神戸三井総合研究所特別顧問

神谷 不二 教授 主要著作目録

一、著書

『朝鮮戦争―米中対立の原形』	中央公論社	一九六六年
『現代国際政治の視角』	有斐閣	一九六六年
『教材 国際法及び国連憲章』	大阪市立大学教材部	一九六七年
『現代の戦争』(福沢記念選書七)	慶應義塾大学	一九七三年
『戦後日米関係の文脈』	日本放送出版協会	一九八四年
『戦後史の中の日米関係』	新潮社	一九八九年
『アメリカを読む50のポイント』	PHP研究所	一九八九年
『朝鮮半島で起きたこと 起きること―分断・共存・統一の歴史と行方』	PHP研究所	一九九一年

二、編著書

『アジアの革命』(高坂正堯、尾上正男と共著)	毎日新聞社	一九六六年
『沖縄以後の日米関係』(ジェラルド・カーチスと共編)	サイマル出版会	一九七〇年
『戦争と平和』(編)	東京グロリア・インターナショナル	一九七一年
『日米経済関係の政治的構造』(永井陽之介と共編)	日本国際問題研究所	一九七二年

『日本とアメリカ－協調と対立の構造』（編著）　日本経済新聞社　一九七三年
『朝鮮問題戦後資料』（編）全三巻　日本国際問題研究所　一九七六－一九八〇年
The Security of Korea: U.S. and Japanese Perspectives on the 1980's. Boulder, Colo.: Westview Press, 1980.
（Franklin B. Weinstein と共編著）
『現代の国際政治』（編著）　旺文社　一九八〇年
『北東アジアの均衡と動揺』（編著）　慶應通信　一九八四年
『二十世紀の戦争』（編著）　講談社　一九八五年
『アメリカ・ハンドブック』（佐伯彰一、荻昌弘、亀井俊介、高階秀爾と共編）　三省堂　一九八六年
『現代の国際政治』（高橋和夫と共著）　日本放送出版協会　一九八七年
『改訂版　現代の国際政治』（高橋和夫と共著）　日本放送出版協会　一九九一年

三、翻訳書

A・シュトゥルムタール著『ヨーロッパ労働運動の悲劇』（神川信彦と共訳）全二巻　岩波書店　一九五八年
ハンス・モーゲンソー著『人間にとって科学とは何か』（監訳）　講談社　一九七五年

四、専門論文

「ソールズベリの東方政策(一)」　『国際法外交雑誌』第五一巻第六号　一九五二年一二月
「宥和の幻想（イギリス）」（神川信彦共著）　『国家学会雑誌』第六六巻第一〇号　一九五三年三月
「ソールズベリの東方政策(二)」　『国際法外交雑誌』第五二巻第四号　一九五三年八月
「小英国主義論(一)」　『国際法外交雑誌』第五三巻第五号　一九五五年四月

「小英国主義論(二)」　『国際法外交雑誌』第五四巻第六号　一九五五年一二月
「イギリス新内閣の外交」　『国連評論』(日本国際連合協会)第三六巻第四号　一九五七年五月
「朝鮮戦争前史(一)」　『法学雑誌』(大阪市立大学)第四巻第一号　一九五七年三月
「朝鮮戦争前史(二)」　『法学雑誌』第四巻第三・四号　一九五八年三月
「現代における戦争」　『法学雑誌』第四巻第二号　一九五七年一一月
「日韓関係をめぐる諸問題—在日朝鮮人問題を中心にして」　『太平洋問題』第六二号　一九五九年五月
「軍事基地協定と主権」　『思想』第四四一号　一九六一年三月
"Arthur William Radford: A Sketch of New Look and Massive Retaliation."　『法学雑誌』第八巻第四号　一九六二年三月
「『ニュールック』をめぐる諸問題(一)」　『国際法外交雑誌』第六一巻第三号　一九六二年八月
「『ニュールック』をめぐる諸問題(二)」　『国際法外交雑誌』第六二巻第二号　一九六三年六月
「朝鮮戦争と国府軍使用問題」　『法学雑誌』第九巻第三・四号　一九六三年三月
「政軍関係 (Civil-Military Relations) にかんする一考察—シヴィリアン・コントロールについて」　『法学雑誌』第一〇巻第二号　一九六三年一二月
「冷戦のストラテジー」　岩波講座現代6『冷戦—政治的考察』所収　岩波書店　一九六三年
「トルーマンとマッカーサー—朝鮮戦争指導の一断面」　篠原一、横山信編『近代国家の政治指導』所収　東京大学出版会　一九六四年
「シヴィリアン・コントロール」　『国民講座　日本の安全保障　第8　自衛隊論』所収　原書房　一九六四年
「分極化から多元化へ」　『国際問題』第五〇号　一九六四年五月号
「アメリカとインドシナ」　『国際問題』第六一号　一九六五年四月号
「現代国際政治における戦争と平和—一つのノート」　『ジュリスト』第三三七号　一九六六年一月

「NASAKOMからAMPERAへ——インドネシア現地報告」
『東南アジア研究』（京都大学東南アジア研究センター）第四巻第三号　一九六六年一二月
"Japan in Asia." in J. D. B. Miller, ed. *India, Japan, Australia: Partners in Asia?* Australian National University, 1968.
「安全保障問題と日本の世論」
『新聞研究』第一九八号　一九六八年一月
"The Korean Peninsular and Japan's Security."
『法学雑誌』第一五巻第三号　一九六八年一二月
「アメリカのアジア政策」
衛藤瀋吉、永井陽之助編『世界の中の日本——安全保障の構想』（講座日本の将来3）所収　潮出版社　一九六九年
"Toward New Japan-U. S. Relations."
『法学雑誌』第一六巻第二・三・四号　一九七〇年三月
「ニクソン・ドクトリンと日米関係——二つの外交教書の回顧」（長田研一と共著）
『国際問題』第一四〇号　一九七一年一月号
"Japanese-U. S. Relations and the Security Treaty: A Japanese Perspective." *Asian Survey* vol. 12, no. 9 (September 1972).
"The New Age of Japan-US Relation." *Survey: a journal of East & West studies* vol. 18, no. 4 (Autumn 1972).
「アメリカの世界戦略と対日政策——新日米関係の摸索」（長田研一と共著）　『国際問題』第一六三号　一九七三年一〇月号
「大量報復戦略」　高坂正堯・桃井真編『多極化時代の戦略（上）』所収　日本国際問題研究所　一九七三年
"Unstable Factors in Japanese Foreign Policy." in Hedley Bull, ed. *Asia and the Western Pacific: Towards a New International Order.* Australian Institute of International Affairs, 1975.
「生存秩序としての国際政治」　日本医師会編『ライフ・サイエンスの進歩　第二集』所収　春秋社　一九七五年
「『激動』と『転換』——ベトナム後のアメリカについての覚書」
『国際問題』第一八七号　一九七五年一〇月号
「国連朝鮮問題の十年」
『法学研究』第四九巻第五号　一九七六年六月

"Beyond Functionalism: Underlying Factors in Improving East-West Relations." *Trialogue* No. 14 (Summer 1977).

「一九七〇年代の日米関係」　衛藤瀋吉他編『日本の安全・世界の平和』所収　原書房　一九八〇年

「日米関係の今後」　民主社会主義研究会議編『大系　民主社会主義　第六巻　国際関係』所収　文藝春秋社　一九八一年

「日米関係の課題」　平和安全保障問題研究所・大西洋評議会編『西側の安全保障』所収　平和安全保障問題研究所　一九八一年

"Recent Developments in Japanese-Soviet Relations." *Trialogue* No. 26 (Spring 1981).

"Japanese Defense: still more butter than guns." *SAIS Review* (May/June 1981).

「トータル・パートナーシップをめざして—八〇年代の日豪関係と日本の安全保障政策」　石川忠雄教授還暦記念論文集編集委員会編『現代中国と世界—その政治的展開』所収　慶應義塾　一九八二年

"The Northern Territories: 130 Years of Japanese Talks with Czarist Russia and the Soviet Union." in Donald D. Zagoria, ed. *Soviet Policy in East Asia.* New Haven, Conn.: Yale University Press, 1982.

"Japan's Security and the International Environment in the 1980's."　『慶應義塾大学創立一二五周年記念論文集—法学部政治学関係』所収　慶應義塾大学法学部　一九八三年

「全面戦争とアメリカ」　永井陽之助編『二十世紀の遺産』所収　文藝春秋　一九八五年

「日本の安全保障と日米安保体制—エッセイ風覚書」　『国際政治　平和と安全—日本の選択』（日本国際政治学会創立三〇周年記念号）　一九八六年一〇月

「朝鮮半島的展望」　『法学研究』第六一巻第五号　一九八八年五月

"Elections, Olympics, and South-North Korean Relations." *Korea and World Affairs* vol. 12, no. 2 (Summer 1988).

五、論文・評論（季刊誌・月刊誌等）

「E・H・カー―異色ある国際政治学」　『改造』　一九五三年一月号
「平和共存・多元化・国連」　『現代の眼』第五巻第六号　一九六四年六月号
「日本外交の『離陸』のために」　『潮』　一九六五年三月号
「防衛と外交―安保の多角化と自衛隊の変質を提唱する」　『潮』　一九六五年六月号
「日米関係の現段階に思う―期待と失望の中」　『中央公論』　一九六五年一二月号
「国際政治への一視角―その『当用』的理解を排す」　『潮』　一九六六年一〇月号
「内政の国、外政の国」　『中央公論』　一九六六年一二月号
「米ソの世界支配と地域主義の台頭」　『中央公論』　一九六七年一〇月号
「沖縄復帰問題」　国際関係委員会『日米合同沖縄調査団レポート』　一九六七年一一月
「現代史の旅―サイゴンからジャカルタへ」　臼井吉見編『現代の教養13：激動するアジア』所収　筑摩書房　一九六七年
「日米関係の転機に臨んで―日米両首脳会談の回顧と展望」　『自由』　一九六八年二月号
「惰性を省みて国民との対話を」　『経済往来』　一九六八年三月号
「朝鮮半島と日本の安全」　『中央公論』　一九六八年六月号
「北爆全面停止の背景」　『中央公論』　一九六八年一二月号
「試練に立つ日米関係―二つの選挙が示唆するもの」　『文藝春秋』　一九六九年一月号
「平和を考える―どうしてみんな平和に仲よくなれないのか？―この素朴な質問は、実は大きな問題を含んでいます」　『婦人公論』　一九六九年二月号
「朝鮮半島危機説を問う」　『アジア』　一九六九年六月号
「アジアにおける中国と日本」　『アジア・クォータリー』第一巻第二号　一九六九年七月

「七〇年代日本の国際環境」　『中央公論』　一九六九年一〇月号
「国際政治の新数値と日本の選択」　『日本及日本人』　一九七〇年一月号
「相互依存の中で」　『展望』　一九七〇年一月号
「分断国家と日本外交―日航機ハイジャック事件を手がかりとして」　『中央公論』　一九七〇年六月号
「日独両国外交の光と影」　『三田評論』　一九七〇年一月号
「動乱二十年目の韓国をゆく」　『諸君』　一九七〇年九月号
「対米情報の量と質」　マスコミ文化懇談会編集『マスコミ文化』（国民出版協会）第一号　一九七一年一月
「中国問題と日本の立場―譲歩の限界を明確にすべきだ」　『経済往来』　一九七一年五月号
「分裂の朝鮮半島」　『国際時評』　第七三号　一九七一年五月
「ベトナム戦争の終り方」　アジア調査会『アジ調月報』　一九七一年七月
「現代の戦争」　『三田評論』　一九七一年八・九月号
「ニクソン訪中と南北朝鮮」　『国際時評』　第七八号　一九七一年一〇月
「アメリカのアジア撤退」　国策研究会『新国策』　第三八巻第三四号　一九七一年一二月五日
「米中接近の国際的意味」　『アジア・クォータリー』　第四巻第一号　一九七二年一月
「朝鮮半島の安定化と日本―朝鮮ロカルノ構想の提唱」　『自由』　一九七二年一月号
「〈日本〉に迷うアメリカ」　『新国策』　第三九巻第一〇号　一九七二年四月五日
「南北朝鮮の平和統一声明」　『国際時評』　第九〇号　一九七二年一〇月
「国連と朝鮮情勢」　『アジア・クォータリー』　第四巻第四号　一九七二年一〇月
「世界政治の流動化と日本」　経済同友会編『多元化時代と企業経営』　所収　鹿島出版会　一九七二年
「敗戦国　西ドイツの外交・日本の外交」　『諸君』　一九七三年二月号
「変貌する韓國問題と日本」　『新東亜』　一九七三年二月号
「日本の選択と対応」　『アジア・クォータリー』　第五巻第一号　一九七三年三月

「国際政治を考える」　『塾』（慶應義塾大学）第一一巻第四号（通巻六〇号）　一九七三年八月
「アジアの新情勢と日本」　『新国策』（国策研究会）第四〇巻第一八号　一九七三年六月二五日
「和平協定成立後のベトナム」　『三色旗』（慶應義塾大学通信教育部）　一九七三年八月号
「最近の朝鮮情勢」　『アジ調月報』　一九七三年一一月
「北爆全面停止の背景」　『中央公論』　一九七三年一二月号
「金大中事件と朝鮮半島への視座」　『自由』　一九七四年一月号
「おくれっぱなしの青年　社会党」　『諸君』　一九七四年一月号
「日本外交の目標」　『アジア・クォータリー』第六巻第一号　一九七四年二月
「国際政治のセンス」　『正論』　一九七四年八月号
「幸運な政治家・ニクソン」　『諸君』　一九七四年一〇月号
「にっぽん再考―日本外交の制約要因」　『月刊　自由民主』　一九七四年一二月
「朝鮮半島の今日と明日」　『泉』（文化総合出版）No.7　一九七五年六月号
「求められる発想の転換」　『TRENDS』（アメリカ大使館広報文化局）二二号　一九七五年六月
「朝鮮半島の現状」　『国際時評』　一九七五年八月
「朝鮮半島に『危機』はない」　『諸君』　一九七五年八月号
「国連総会における朝鮮問題―一九七二～七四年」　『三田評論』　一九七五年一一月
「インドシナ革命と日本のアジア政策」　『アジア』第一〇五号　一九七六年一月号
「国連総会における朝鮮問題―二つの決議案の通過をめぐって」　『アジア時報』　一九七六年三月
「日露・日ソ交渉の百二十年」　『諸君』　一九七六年三月
「兵火こそ消えたけれど」　『日本及日本人』　一九七七年一月号
「日米共同声明後の朝鮮問題―米軍撤退が問題打開の糸口を」　『アジア時報』　一九七七年五月
「日・韓・米関係の将来」　『アジア』第一一九号　一九七七年六月

「外交政策としての『在韓米軍』」　『諸君』　一九七七年七月号
「日ソ漁業交渉とソ連外交」　『三田評論』　一九七七年七月号
「『意思表示なき外交』への直言」　『諸君』　一九七八年一月号
「日米関係の現状と展望」　『外交評論』第一五六号　一九七八年八月
「ソビエトの報復―アメリカから見た日中条約」　『文藝春秋』　一九七八年一〇月号
「日米関係雑感―経済・安保関係を中心にして」　『アジア時報』第一一一号　一九七九年七月
「日米〝対立のとき〟を越えて」　『正論』　一九七九年七月号
「相対化の時代」　『文藝春秋』　一九七九年九月号
「日米関係の可能性」　『文化会議』第一二三号　一九七九年九月号
「米国のアジア外交の新展開」　『東亜』第一四八号　一九七九年一〇月
「安全保障寸評」　『正論』　一九七九年一一月号
「朴大統領射殺事件の国際的背景」　『中央公論』　一九七九年一二月号
「韓国はどこへゆく」　『文藝春秋』　一九八〇年七月号
「クレムリンの自信と不安―いまソ連は何を考えているのか」　『文藝春秋』　一九八〇年一二月号
「レーガン勝利の波紋―米大統領選挙圧勝の背景と国際的影響を予診する」　『正論』　一九八一年一月号
「大統領選挙後のアメリカ」　『アジア時報』第一二九号　一九八一年一月
「朝鮮戦争―日本による独占支配崩壊後の米中ソ角逐抗争」（赤木完爾と共著）　『改革者』（民主社会主義研究会議）第二二巻第九号　一九八一年一二月
「新段階の日米関係と安全保障」　『アジア』第一六巻第二号　一九八一年二月
「日米は基本的国益を共有する」　『東亜』　一九八一年八月号
「国際情勢と日本の立場」　『三田評論』　一九八二年一月号
「レーガン路線の現実を直視せよ」　『文藝春秋』　一九八二年四月号

「『アジア』の発展を導いたもの」　『アジア』第一七巻第三号　一九八二年四月号
「デタントの危機に軋む米独関係」　『ＥＳＰ』（社団法人経済企画協会・経済企画庁）第一二一号　一九八二年五月
「アメリカ議会の公聴会に思う」　『コリア評論』　一九八二年五月号
「緊迫する国際政局と日本」　『外交評論』第一七九号　一九八二年五月号
「日米経済戦争的記事の危険」　『新潮45＋』　一九八二年九月号
「軍事力と政治的影響」　『対ソ政策をめぐって―日米共同セミナー報告』所収（平和・安全保障問題研究所『平和と安全』シリーズ二三）　一九八二年
「欧米の日本を見る目」　『アジア時報』第一五三号　一九八三年一月
「中曾根外交―もう一つの素顔」　『Ｖｏｉｃｅ』　一九八三年八月号
「真価を問われる中曾根政治」　『Ｖｏｉｃｅ』　一九八四年三月号
"Japan's Security and the International Environment in the 1980s." *MITSUBISHI BANK FORUM* (April 1984), The Mitsubishi Bank Foundation.
「論壇時評」　『ＴＨＩＳ　ＩＳ』（読売新聞社）　一九八四年六月号から一九八七年三月号まで
「レーガンはなぜ強いのか」　『文藝春秋』　一九八四年七月号
「米国大統領選挙後の国際情勢」　（平和・安全保障問題研究所『平和と安全』シリーズ四二）　一九八四年一二月
「黒い『不死鳥』が帰ってきた」　『諸君』　一九八四年一二月号
「国際情勢の現状と展望」　慶應義塾『慶應義塾創立百二十五年記念講演集』　一九八四年
「85年・米ソの動向と日本」　『月刊　自由民主』　一九八五年一月
「ものの見方―ユートピアニズムとリアリズム」　『塾』1985/No.3（六月）
「誤報の原点だった〝朝鮮戦争報道〟」　『正論』　一九八五年九月号
「国際化と責任」　『文化会議』第二〇七号　一九八六年九月
「日米安保体制論」　『現代の安全保障』（安全保障問題研究所）第五〇号　一九八六年一〇月

「INFの『大譲歩』—米ソ首脳会談考」　『アジア時報』第二〇〇号　一九八六年一二月号
「国際環境の中の朝鮮半島—楽観論と悲観論の谷間で」　『文化会議』第二一二号　一九八七年二月号
「共存のための政治学」　『正論』　一九八七年二月号
「モスクワから見た太平洋」　『アジア時報』第二〇八号　一九八七年九月号
「『ソ連新体制』を解く十のカギ」　『諸君』　一九八七年九月号
「金大中が大統領になる日」　一九八七年一一月号
「『内向き時代』の日本外交」　『Kakushin』(民社党中央理論審議会)第二一一号　一九八八年三月
「領土が交渉によって還えるとき」　慶應義塾大学法学部政治学科開設九十年記念講演　一九八八年六月一日
「アメリカは今後どうなるか」　『アジアと日本』第一七五号　一九八八年九月
「オリンピック後の朝鮮半島」　『月刊　自由民主』　一九八九年一月号
「世界秩序の未来像」　『日本及日本人』第一五九四号　一九八九年四月
「北東アジアの今後の課題」　『韓日研究』(韓日問題研究所)　一九八九年四月号
「北朝鮮は変るだろうか」　『文化会議』第二四一号　一九八九年七月号
「修正主義—アメリカの危険なムード」　『アジア時報』第二三四号　一九八九年一一月
「共産主義の凋落」　『新防衛論集』第一七巻第三号　一九八九年一二月
「世界は変わった—私が見た『革命』前夜の東欧」　『文藝春秋』　一九九〇年一月号
「アメリカは没落するか」　『正論』　一九九〇年一月号
「パックス　ゲルマニカの進行」　『文藝春秋』　一九九〇年二月臨時増刊号
「アメリカに素直にモノを言うためには」　『Kakushin』第二三八号　一九九〇年六月
「日米欧委員会報告」　『アジア時報』第二四三号　一九九〇年八月
「朝鮮戦争は日本人に何を遺したのか」　『諸君』　一九九〇年九月号
「国際正義の危険な幻想」　『THIS　IS　読売』　一九九〇年一一月号

「朝鮮、ヴェトナム、湾岸」　『軍事史学』（軍事史学会）第二六巻第三号　一九九〇年一二月
「アメリカよ謙虚に低姿勢に」　『諸君』　一九九一年六月号

附記　本目録作成にあたって法学部神谷不二研究会四年生鈴木悦郎君をはじめ研究会四年生有志の全面的な協力を得た。記して厚く御礼申し上げる。神谷不二教授の総合著作目録は、『神谷不二研究会二十二年史』（慶應義塾大学法学部神谷不二研究会刊、一九九一年一二月）に収録されている。（赤木完爾記）